
訪問者

なんがー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

訪問者

【Nコード】

N3476B

【作者名】

なんがー

【あらすじ】

以前から嫌っていた相手を殺してしまった。しかし数年後……。

もう時効だと思えますので……。観念して、昔の私の罪悪について告白させて頂きとつございます。

私と、私の3人の友人達は、かつてギリシャへ旅行へ行ったことがあります。表向きは友人同士の仲の良い旅行でしかありませんでしたが、私達は、実は表沙汰にできないあるもう一つの目的を持ってギリシャへ赴いたのです。

すなわち、それは私達4人のグループの中の一人である女性……仮にA子としておきます……をギリシャ国内で殺してしまう事でございます。

それというのも、そのA子はかなり以前から私達に嫌われておりまして……日本で殺してしまつてはすぐに足がついてしまつと思つたからです。

もともとA子は私の幼馴染でした。子供の時は一応友情なぞ感じていたものでございますが、しかし、大人になってからは私は彼女のことを少しも好いてはおりませんし、親愛の情を感じたこともありません。

A子とはとにかく底意地の悪い女で、いつもいつも私達を困らせるような言動や嫌がらせをしては、私達のうろたえたり悲しんだりする様を見てカラカラと笑い転げるような人でした。

ある年、私を含む3人の友人グループは、夏に長期の休みを取っ

てギリシャへ旅行しようという提案しました。私達はそれに同意し、少しずつ旅行へ向けての準備を始めたのです。

ところがA子はどこからその話を聞きつけたものか、私達をつかまえて「私も連れて行って」と言い出しました。

初めは断ろうとしましたが、何度も頼み込まれるうちにどうしても断りきれなくなり、結局A子も旅行へ同行することになってしまつて……。

私はあの女と旅行へ行くことなど心底嫌でした。きっと他の二人も同じことだつたらうと思います。

A子を殺してしまおうと考えたのはB子でした。私と、もう一人の友人のC子は最初は猛反対しました。いくら憎くても殺してしまうのには同意しかねたのです。

しかし、私達は日頃A子に強い怨みを抱いていたわけで、結局はB子に流されてA子を殺す計画に同意してしまつたのです。

旅行は平穩に進んでいるように思えました。色々な遺跡を巡つたり……買い物をしたり……そのうちに、私達4人は海沿いの高い崖の上によつて来ました。

……そこでA子を始末してしまう手筈だつたのです。

幸いと申しましょうか、A子は崖の端に自ら歩み寄つて海を眺めていました。後ろからそれを眺めていた私は、周りに人がいないことを確認してから……なるべく足音を立てぬように……A子の背中

に手を……。

ああ、ここから先は恐ろしくてお話ししとつございませぬ。それにアナタも言わなくても察しがつくでしょう？

最後に触ったA子の背中感触と、遠くに見える綺麗な海とが、何だか妙に私の記憶に残っております。

A子を首尾よく始末した私達は、残りの日程を過ごしました。過ごしはしましたが、やはり何となく気持ちが悪く思われました。だって今の今まで自分達と一緒にいた人間を殺してしまったのですから。

当然の如く、A子が旅行中に失踪したことについては事件になって現地の警察が捜査を開始し、私達もいろいろ取調べやら事情聴取やらを受けました。

私達は何を聞かれても知らぬ存せぬで何とかやり過ごし、無事に日本に帰ってくることができました。

A子の失踪に関しては、当時日本でもかなり話題になりました。私達は毎日のようにテレビのインタビューに……え？そこはご存知左様ですか。

では、この話の次の段に入りとうございます。“罪悪”に関してはもう話し終えましたが、もう一つ、私はある奇怪な出来事に……現実にはまずあり得ないのではないかと思うような奇怪な出来事に遭遇したのです。

退屈だとは思いますが、いま少しお付き合い下さい。

私達がA子を殺してから8、9年ほど経った頃でございましょうか。A子は相変わらず失踪扱いで、死体すらも見つかってはいないようでした。それにその頃になって来ると、世の中はA子という人間が失踪したことなどスツカリ忘れ去っていたようです。

当時、A子を除いた私達3人はまた、ギリシャへ行くことにしました。どうしても分かりませんが、もしかしたらその時もう、私達はA子の怨念か何かに取り付かれていますのかもしれないが……。

私達はギリシャに行くと、A子を殺した崖までやって来ました。殺人を犯してから年月が経っても、相変わらず目の前の海は綺麗なままでございました。

ただ一つ違うものと言えば、心の中に残ったもやもやとした気持ち悪さ……。

その日一日、崖に行った以外に私は何をしたか覚えておりません。全ての記憶が夜に起こった怪事によって消し飛んでしまったとしたか

……。

その晩、私達は適当な宿を探して宿泊することに致しました。部屋は3人それぞれ別の場所を取りました。

私は……夜10時ごろだったと記憶しておりますが、ベッドに入ったと思います。しばらく時間が経つてうとうとし始めた頃、誰かが私の泊まっている部屋のドアを“コンコン”とノックしたのです。何だか妙に力の抜けた叩き方でした。

初めは別の部屋に泊まっている友達が、何か用があつてきたのかもしれないと思つてベッドから降りて、ドアに付いている小さな穴、それを覗いてみました。

すると……ああ、恐ろしい……信じ難いことではありますが、A子が……確かに私が殺したはずのA子が立っていたのです……！

私は恐ろしくなつてドアから飛び退きました。殺された人間が殺した人間のもとに現れるなんてまるで小説のようじゃありませんか。

少しすると、ベッドの傍でガタガタ震えている私に向かつて、ドアの向こうのA子が、別の部屋に泊まっているはずのB子の声で

『私よ、B子よ。何をそんなに驚いているの。あなたに話があるのよ。だから急いでここを開けて頂戴よ、A子……』

って。

もちろん開けたりなんかしませんでしたよ。トテモ怖ろしかったのでございますから……。それに私は怖くて怖くて、返事をするこ
とすら適いませんでした。

板一枚隔てた先にこの世の者ではない者がいると思うと、しつこ
いようですが……。もう本当に怖ろしくて、私はベッドに倒れこんで、
掛け物をひっかぶって一刻も早くA子がいなくなってくれることを
願っていました。

……。それからしばらくすると、部屋の窓から真っ白い光が差し込
んで朝なっていたじゃありませんか。A子がやってきたのは夜でし
たから、キット私、いつの間にか寝入ってしまったんですね。
私は寝起きのブーツとした頭でいろいろと考えてみました。

昨晚のアレは夢だったのかしら……。

死んだ人間がやって来るなんて、昔の化物話じゃあるまいし……。

そんなことを考え考え窓の外を見ておりますと、ホテルの職員の
男の方が狼狽したような表情で部屋に入ってきました。

曰く『あなたのお連れ様が二人とも部屋で亡くなっている』って…。
…。
気になって詳しい話を聞いてみると『何かに押し潰されたようになっていた』って…。

後で知ったことですが、ギリシャの伝説の言うことには“Vryk
コラカスo i a k a s”とかいう怪物がギリシャにはいて、部屋のドアをノックしたり、中の人間の名前を呼んで、呼びかけに応じた人間の上に乗って押し潰して殺してしまうとか…。

私はノックされても名前を呼ばれても、何も言いませんでしたから助かったのかもしれませんが、きつと他の2人はA子の呼びかけに応じて押し潰されてしまったのでしよう。

それから、ヴリコラカスという怪物は“埋葬が不適切であった者”がなってしまうとも聞きました。

きつとあの晩現れたのは私が殺したA子なんです。だって、埋葬どころか死体すら見つかっていないのですから。

それからもう一つ……“不道德な行いをした者”もまた、死後にヴリコラカスと化すと……。

きっとA子を殺した私も、死んだ後にヴリコラカスになってしま
うに違いありません。

そうしたら2人仲良く誰かの部屋のドアをノックすることになっ
てしまいかもしれませんね。

結局私は、本人を殺しても自分が死んでもA子からは逃れられそ
うにありません。あの大嫌いなA子からは……。

フフフ……。

アハハハハ……。

どうか私のことを、この無様な人殺しを笑ってやって下さいまし。
ウフフフ……

これで……私の話はお終いでございます。おや、もうこん
な時間ですね。

長々とお付き合ひ下さって、本当にありがとうございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家なるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3476b/>

訪問者

2010年12月10日01時07分発行